

国境管理と歴史の社会学に向けて

日時: 2019年7月29日(月) 13:20～14:50

場所: 神戸大学 国際文化学研究科E410・学术交流ルーム

講師: 朴 沙羅 (神戸大学国際文化学研究科講師)

報告内容:

昨年度から継続して、戦後処理過程と出入国管理政策の国際比較に関する調査と論文執筆を行い、並行して「慰安婦」問題に関わってきた人々にインタビューを行ってきました。その結果を報告します。

報告者プロフィール:

2013年京都大学文学研究科博士後期課程研究指導認定退学。移民・エスニシティ研究。単著に『家の歴史を書く』（筑摩書房, 2018年）『外国人をつくりだす：戦後日本における「密航」と入国管理制度の運用』（ナカニシヤ出版, 2017年）。翻訳に『オーラルヒストリーとは何か』（水声社, 2016年）、編著に『最強の社会調査入門』（ナカニシヤ出版, 2016年）。

主催:テニュアトラック教員(朴講師)育成グループ

協力:国際文化学研究推進センター(Promis)

問い合わせ先:青山 薫(国際文化学研究科) kaoru[at]tiger.kobe-u.ac.jp